□ 熱中症指標計 □

熱中症の予防対策に！

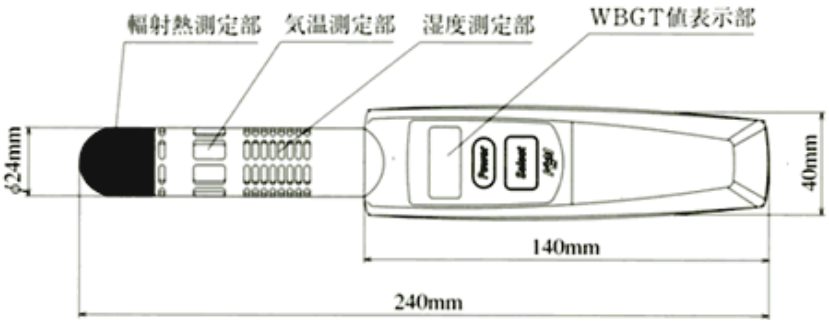
暑熱環境における熱中症予防対策は、大丈夫ですか？

熱中症と相関の非常に高い気象指標としてWBGT値（暑熱環境指標）があります。

熱中症の発生が予想される場合は、局所のWBGT値を測定する必要があります。

アスファルトの上や緑の多い公園ではWBGTの値が大きく異なりますので、

熱中症指標計（WBGT計等）で確認し、適切な処置が必要です



形式名称	WBGT-113 熱中症指標計（暑熱環境計）
測定範囲	WBGT 値：0 － 50℃
	気温 ：0 － 50℃
	相対湿度 ： 10 － 90%RH
	輻射温度 ： 0 － 80℃
測定精度	WBGT 値：±2℃（15 － 35℃）
	気温 ：±1℃（15 － 35℃）
	相対湿度 ：±5%（20 － 80%）
	輻射温度 ：±2℃（15 － 35℃）
電源	単四 1.5V 乾電池（X2本）
質量	約 150g
付属品	携帯用ケース・・・・・1個
	単四 1.5V 乾電池・・・・・2本
	取扱説明書・・・・・1部

ランク	WBGT(℃)	対応
運動は原則中止	31以上	WBGT31℃以上では、皮膚温度より気温のほうが高くなる。特別の場合以外は運動を中止する。
厳重に警戒	28～31	熱中症の危険が高いので、激しい運動や持久走などは避ける。運動する場合は積極的に休息をとり、水分補給を行う。
警戒	25～28	熱中症の危険が増すため、積極的に休息をとり、水分を補給する。激しい運動では30分おきくらいに休息をとる。
注意	21～25	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意しながら、運動の合間に積極的に水分を補給する。
ほぼ安全	21未満	通常は熱中症の危険は少ないが、水分の補給は必要。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意する。